

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

(1) 学習活動「絵本を手にとろうとする幼児の育成」

幼児が自分で好きな絵本を選ぶことができるよう、絵本棚と椅子のある絵本コーナーの設置、教師のお勧め絵本の掲示の更新等の環境設定を行った。また、幼児が自分で絵本を読みたいという意欲を育てることができるよう、学校図書館司書による読み聞かせの会や、教師が手話や身振り、ペープサートを操作して、表情豊かに読み聞かせる機会を多く設定した。これらの取組を通して、幼児は進んで絵本を選んで読んだり、自分もお勧めの本を紹介したいと話したり、自らペープサートを操作して物語の楽しさを伝えようとする様子が見られた。

(2) 特別活動「自分から進んで、誰にでも挨拶できる幼児児童生徒の育成」

春と秋の「さわやか運動」期間中に「朝のあいさつ運動」を実施したり、生徒会が中心となり、「あいさつビンゴ」等の取組を企画し、全校幼児児童生徒がいろいろな人と挨拶できる環境づくりを行ったりした。また、学部ごとに発達段階に合わせた目指す挨拶像を掲げ、「あいさつレベルアップ大作戦」に取り組んだ。これらの取組により、全校の幼児児童生徒や教職員の名前を覚え、自分から挨拶をしたり、相手の顔を見て大きな声で挨拶したりする幼児児童生徒が増えた。

7 次年度へ向けての課題と方策

(1) 学校図書館司書と連携し、幼児の実態に合わせた絵本の選定や絵本コーナーの設置等の環境設定、読み聞かせ会や読書発表会の実施に引き続き取り組んでいく。幼児が絵本を好きになるような教師の働きかけや読み聞かせの工夫、幼児の主体性を引き出していけるような読書発表会の発表方法の工夫等に努めたい。

(2) 挨拶やマナー、身だしなみ等、社会で求められる態度が身に付き、定着が図られるよう、あいさつ運動期間以外のあらゆる機会を活用し、幼児児童生徒の発達段階に合わせた手立てを工夫して取り組んでいく。周囲の大人が見本となって元気に挨拶をする姿を見せたり、幼児児童生徒が昨日より大きな声になっていたら認め言葉を掛けたりするなど、幼児児童生徒の意欲を引き出したり、自己肯定感を育んだりできるような働きかけを行っていきたい。

8 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動 - 幼稚部 -
重点課題	絵本を手にとろうとする幼児の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部では、保護者又は教員と幼児による読書発表会を年に3回設定し、絵本に親しむ機会を設定している。 ・本校の図書室から毎月10冊程度の絵本を選定して幼稚部に配架している。 ・お知らせ黑板にある写真やイラストの掲示があると、興味をもって自分から情報を得に行く様子がみられる。 ・平仮名を一文字ずつ読んで、絵と対応できる言葉が増えてきている段階である。 ・本は、聴覚障害のある幼児にとっても、読み手の音声言語や手話、指文字等と、絵本の絵や文字などの視覚的な情報を手掛かりとすることで、言語面や情緒面等の発達を促すことができる大切な教材である。 ・幼児が自分から絵本を手に取り、読んでみたいと思えるような環境設定や読み聞かせの工夫が必要である。
達成目標	<p>幼児が進んで絵本を手にとろうとする環境設定や読み聞かせを行う。</p> <p style="text-align: center;">5回以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が自分で好きな絵本を選ぶことができるよう、絵本の配置の工夫や選定を学校図書館司書と連携して行う。また、図書室に行って、たくさんの本に触れたり、自分で本を選んだりする時間を設定する。 ・自分で絵本を読みたいという意欲を育てることができるよう、学校図書館司書と連携をして季節や行事に関連した絵本の読み聞かせを、手話や身振りをを用いながら行う。
達成度	環境設定等 7回実施／絵本の読み聞かせの会、読書発表会等 17回実施
具体的な取組状況	<p><環境設定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が遊ぶホールの中心に、絵本棚と椅子のある絵本コーナーと掲示板を設置した。 ・掲示板に身近な教師のお勧めの絵本を紹介した。 ・絵本棚の絵本は、学校図書館司書の協力を得て、1ヶ月ごとに入れ替えた。 (幼児が興味をもちそうな絵本、季節やその時期の行事に関連した絵本等) ・図書室に行く機会を積極的に設定した。 <p><読み聞かせの会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室で学校図書館司書による絵本の読み聞かせの会を設定した。 ・繰り返しの文章が出てくる絵本を選定した。 ・手話や身振りをを用いたり、ペープサートを操作したりして、絵本の内容の理解を促した。 <p><読書発表会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が自分で選んだ本を保護者や友達、教師の前で発表する場を設定した。 ・教師が事前に、絵本の内容とその楽しさが伝わるような発表方法のモデルを提示した。
評 価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>幼児が進んでお勧めの絵本を選んで読む、幼児が「自分もお勧めの本を紹介したい」と話す、絵本の中の繰り返しの言葉を覚えて読む、ペープサートを動かして、物語を楽しむなど、絵本に親しむ様子が見られた。</p>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や友達、教師参加の読書発表会では、幼児は他者に褒められ、自己肯定感を高め、満足感を得るという経験を積んでいる。環境設定と読書発表会の工夫が、幼児の主体性を引き出している。 ・聴覚障害のある幼児にとっても、幼児期に絵本を読むことは大事な活動である。デジタルではなく紙の絵本を1ページずつめくることが、思考力、想像力を高めことにつながる。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、次年度在籍する幼児の実態に合わせて、学校図書館司書と連携して絵本を選定し、絵本コーナーの設置等の環境設定、読み聞かせの会や読書発表会の方法を検討していく必要がある。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

8 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和6年度 富山県立高岡聴覚総合支援学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	特別活動 ー生活支援部ー
重点課題	自分から進んで、誰にでも挨拶できる幼児児童生徒の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害のある幼児児童生徒と知的障害のある生徒がともに学んでおり、障害の特性から積極的にコミュニケーションをとることに抵抗がある場合も多く、挨拶を交わすことで相手に伝わった喜びや心地よさ、達成感を感じる機会が必要である。 ・高等部のインターンシップでは、挨拶や質問、報告など自分から周囲の人に関わることに課題がある生徒が多い。日頃から生徒同士や大人とのかかわりの中で、挨拶をすることを習慣化し、相手や場に応じた挨拶や、言葉遣いに自信をもってできるようにする必要がある。
達成目標	<p>幼児児童生徒が自分から主体的に挨拶できる取組を全校で実施する。</p> <p>2回</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・春の「さわやか運動」をきっかけに、幼稚部から高等部までの幼児児童生徒がいろいろな人と挨拶するための環境づくり(あいさつビンゴなど)に努める。児童・生徒会が中心になることで、行事の企画、準備、振り返りを行い、挨拶の意義を考える機会とする。 ・秋の「さわやか運動」では、幼稚部、小学部、中学部、高等部の目指す挨拶像を掲げ、挨拶の仕方について意識して取り組む機会とする。幼児児童生徒が成果を確かめ、その後の日常生活で継続して挨拶を実践できるように促す。
達成度	全校で2回実施。その後、各学部ごとに1回ずつ実施。
具体的な取組状況	<p>○春と夏の「さわやか運動」の期間中の取組</p> <p>①例年行っている「朝のあいさつ運動」の実施</p> <p>②幼児児童生徒が、学部や年齢の枠を超えた関わりを広げ、誰にでも自分から挨拶ができるようになることをねらい、生徒会が中心となって「あいさつビンゴ」や「あいさつレベルアップ大作戦」などの取組を企画し、全校幼児児童生徒で取り組んだ。</p> <p>○各学部ごとの取組（2回のあいさつ運動終了後に、各学部で目指す挨拶像を掲げた発達段階に応じた実践）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部では、挨拶に関する目標を担任と一緒に決め、9人と挨拶するとモンスターシールをもらうことができる活動を行った。 ・小学部では、「あいさつ運動レベルアップ大作戦～クリスマス編」を実施した。春夏のさわやか運動の取組を引き継ぎ、児童それぞれが目標を立てて、シールやプレゼントを貰うことを励みに取り組んだ。 ・中学部、高等部では、職場での挨拶や身だしなみを意識した取組を行った。作業学習の時間に、友だち同士で服装を確認したり、返事・報告の声出しを大きな声で行ったりした。また部活動では、体育館に来られた先生や見学のお客さんに、練習を中断して挨拶する習慣を身に付けるよう取り組んだ。
評 価	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼んでから挨拶を交わすことで、全校の幼児児童生徒や教職員の名前を覚え、自分から挨拶をする幼児児童が増えた。また、いろいろな場面で、相手の顔を見て大きな声で自分から挨拶する生徒が増えた。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・会社で求められることの一番は挨拶である。障害がある人がしっかり挨拶をする姿が、他の従業員にもよい影響を与える。今回の取組を継続してほしい。 ・大人が鏡となり、元気に挨拶をする姿を見せるとよい。恥ずかしさを感じる年代の生徒もいるが、昨日より大きな声になっていたら認め言葉を掛けるなど、プラスの変化を見逃さないことが重要である。
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部、高等部の生徒が、幼稚部や小学部の手本となるような場面を多く設定する。 ・あいさつ運動期間以外でも、積極的に挨拶できるよう年間を通して手立てを設定する。 ・挨拶やマナー、身だしなみ等、社会で求められる態度の定着を図るための手立てを工夫したり、講習会等を計画したりして、自ら意識して行動できる生徒を育てる。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)